

6月11日(水)

原発についての勉強会

花の村例会終了後の午後1時から「倉馬の里」集会所で掛川市在住の蔵下和男さんを招き、「原発が動植物に与える異変」というテーマで話を聞きました。

蔵下さんは以前浜岡原発から1.5キロのところに住み、野生の動植物の生態観察によりクローバーの葉の異常などを発見しました。

今回は最近の話題も含めてお伺いしました。以下紙面の関係で要旨を抜粋・列挙します。
出席者は8名と少人数でしたが膝を交えての話は4時間に及びました。

- ・ 2008年4月 柏崎刈羽原発周辺でソメイヨシノ(桜)の異常花率が通常0.1%のものが⁵39%となった。
- ・ 浜岡周辺では肺がんが多く、また流産の率が42%と高い。(通常10%〜12%)
- ・ 浜岡原発1号機の稼働以降海

岸に打ち上げられる貝の種類が減少した。

- ・ 浜岡原発取水路内に付着した牡蠣・フジツボなどで作った肥料から放射能が検出された。
- ・ 平成23年3月米軍の「トモダチ作戦」に参加した救助隊員81名が平成26年2月東京電力を相手取りカルフォルニア州連邦地裁に総額100億円(邦貨換算)損害賠償請求の申し立てがなされた。

以上はごくほんの一部ですが、このほかにも知られていないあるいは知らされていない事実が沢山有り改めてアンテナを高く張る必要があると痛感しました。

(藤本記)

投稿

やがて来る日

渡辺 和夫

「産めよ殖やせよ」といつても、もう高齢者でないと、これがかつて日本の「子だくさん奨励政策」のス

ローガンだったとは知らないでしょう。

昔の親はマジメに頑張りました。私が7人兄弟の4番目、妻が8人姉妹の7番目。合わせれば15人いた兄弟姉妹も歳を重ねていまは半数です。でも、それぞれの連れ合いを加えると、やはり15人。

頭が痛いのは、現役を退いた高齢者ばかりの15人に、これから続いて発生する葬祭への負担です。もう、冠婚の負担はなくなりつつありますが、近親者同士に必ずやってくるその時の義理は互いに考えておかなければなりません。

地方に暮らしていて、首都圏に住む身内の法事に夫婦で一度臨むと、交通費、宿泊費、香典、生花などに、その月に受け取る給付年金の多くを費やしてしまいます。

そのために、日ごろから心がけて予算のキープはしますが、宮城の山奥に住む私どものところにまで来ていただくとなれば同じような負担をかけることになります。

8年前に、墓石不用の「樹木葬」

に申し込んだのは、その布石です。子ども、孫など家族10人だけで弔う簡素な旅立ちと決め、身内には事後の連絡のみと了解を取りました。お互い、負担が軽く済む葬送を声をかけ、樹木葬を奨めています。平穩に過ぎてゆく田舎暮らしですが、歳が加わるだけ、やがて来るその日の対処法を明確にしておくべし、と考えるようになりました。

投稿者ご紹介

投稿主の渡辺和夫さんは「倉馬の里」柴桂子さんのご友人、グリーンツーリズムで、北海道や遠く英国まで出かけるなど幅広く活動、我々の運動にも大きな関心をお寄せいただいております。

沼津市出身76歳、16年前から宮城県蔵王町で民宿を「夫婦で経営、その傍ら農業にいそしんでおられます。

私たちもそういつ世代になつたのか 編集子